

장르: 환상, 공포, 심리

1987

출판 : 김문호 / ISBN : 978-89-6090-000-0 / 2013년 04월 / 224쪽 / 1만 5천 원

23/11/04

目次

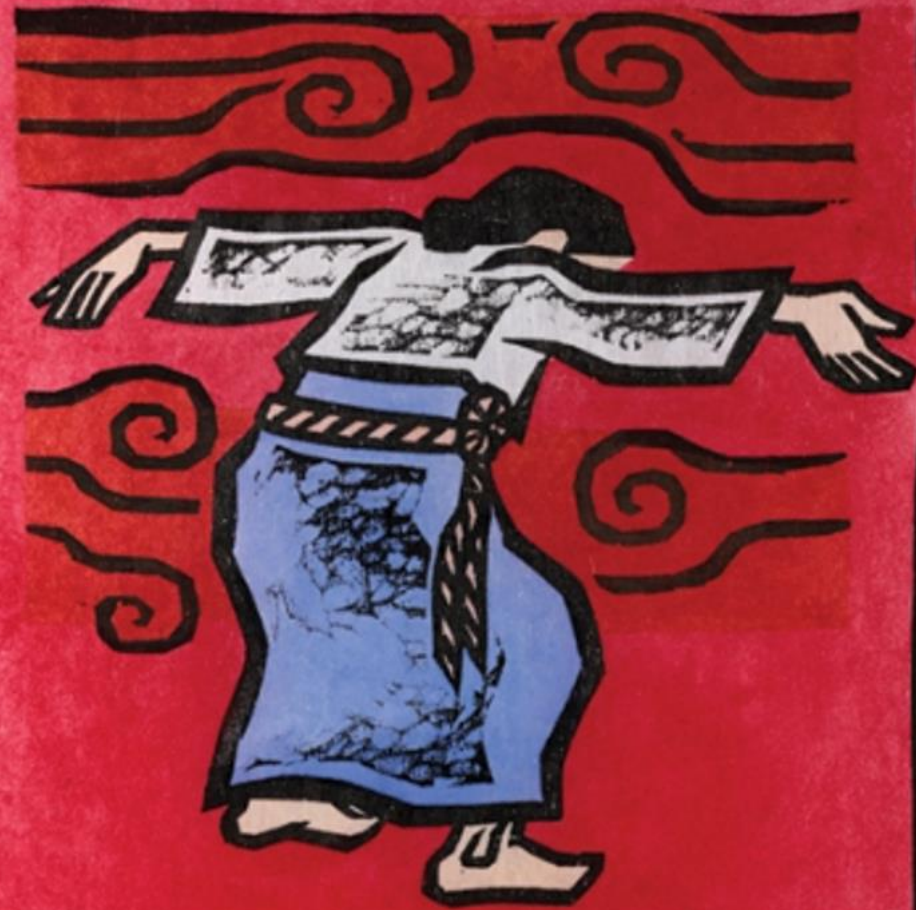
I. はじめに

II. 生命思想と東学思想のリミナリティ

III. 律呂思想と正易思想のRevitalization

IV. ヒングヌル美学に現れた甕山の和解と
相生

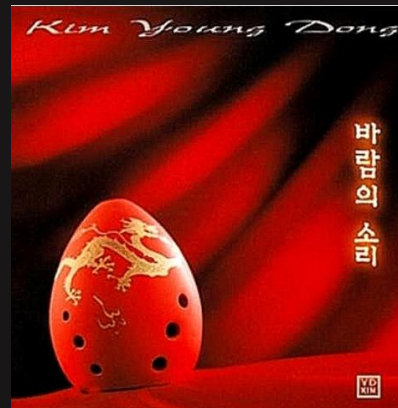
V. おわりに



I. はじめに

金芝河が遺した和解と相生

伝統と近代の和解、1987
で始まり、神秘主義
経済の復活で締めくくる



I. はじめに

金芝河追悼一周忌は

金芝河思想の曖昧さと
放漫さも糾弾している

A. 小説家キム・フンは一般人には理解困

難年
難年は内面に没頭しすぎ、人々に理解できない言葉を、後輩たちにも理解できない言葉を多く語った。.

B. 小説家チャン・ジョンイルは三大ホラ吹きと

表棍の世帯
表棍の世帯は果てしなく広く、その歩みには遮るものがなかった。

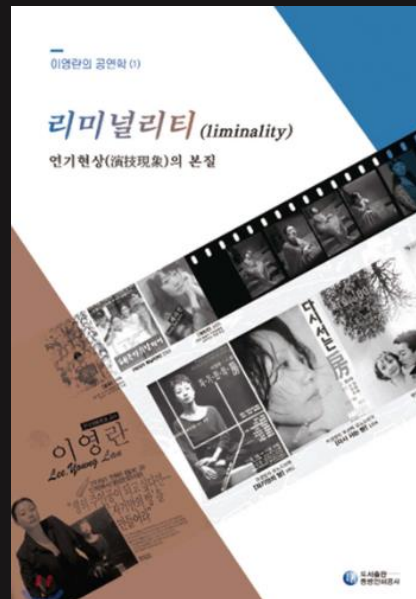
民主主義に向けた闘争と業績は紙面にあふれたが、直接訪れて彼の霊前に花を捧げる人はまれだった

C. パンソリの名唱イム・ジンテクは変節

諷を釈明
諷を釈明ん妄の症状まであったが、死の祭り、朴槿恵支持は誤解が大きかった

I.はじめに

金芝河思想の理解には リミナリティというキーワード 再活性化という一貫性が必要



I. はじめに

『リミナリティ』の理由

リミナリティは脱境界、
中間地帯であり、金芝河
の生命、律呂、ヒングヌ
ル

A. リミナリティは通過儀礼の用語である。

人間は通過儀礼で成長し、全世界の通過儀礼は「敷居」というリミナリティの中間地帯で行われる

B. リミナリティは儀礼から演劇へと進む

アリストテレスのカタルシス戯曲理論は、リミナリティ理論によって2000年ぶりに置き換えられる。京劇、マダン劇、遊びはリミナリティを美学とする

C. リミナリティはポストモダンのキーワードである

リテラチャーは意味と放漫さを特徴とするポストモダニズムを総括する用語へと発展する。これは自生的ポストモダニズムを理解する鍵にもなる

I. はじめに

リミナリティは

ポストモダニティの
キーワードとなる

現象学	脱構築主義	過程哲学	生成哲学
メルロ＝ポン ティ	ジャック・デ リダ	アルフレッ ド ホワイトヘ ッド	ドゥルーズ/ガ タリ
個人的意識と 実際の間の 生きた経験	「間」における予測 不可能で不確定な 様相	存在は存在によって構成 されるのではなく、生成 によって構成される	存在と存在の作動原理を機械と 配置として解釈
生きている 俳優の 身体を通して 現れる 世界の顕示	「私」と「易」との「間」「間 隙」で生じる予測不可能 性	「私」と「易」 が 自ら共に 変化してい く 過程的行為 それ自体	「私」と「易」という存在ではな く、存在の間で起こる変化の様 相

I. はじめに

金芝河の批判者も

失敗すると知りながらも試みる
金芝河をリミナリティとして理解

A. 「五賊」はホモ・サケルのリミナリティ

「五賊」で金芝河は、筆先が陰しい罪で、筆先が陰しい罪でチルジョンに引かれて行き尻を打たれようとも、言うべきことは言うと言っている

B. 民族美学は植民地のリミナリティ

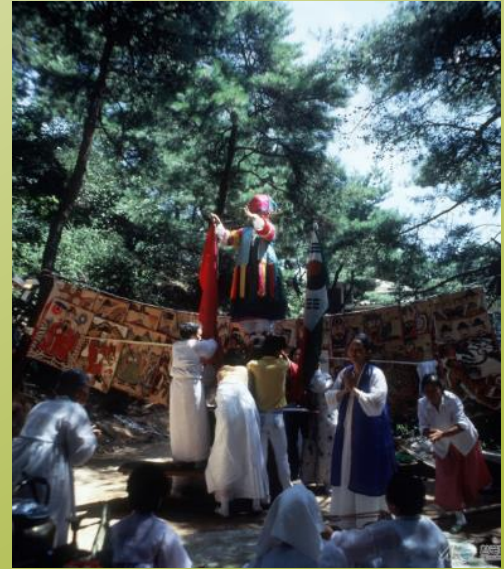
金芝河は文化帝国のシュルレアリスムと文化植民地のパンソリの境界を行き来し、譚詩によって東アジアを黒人三世から脱出させる

C. 左右横断は偽悪のリミナリティ

偽善とは反対に、偽悪は皆から見捨てられるリミナリティとなる。独房から出た金芝河は左を批判し、出獄してもなお自ら独房に閉じこもる。

Ⅱ．生命思想と東学思想のリミナリティ

ヴィクター・ターナーは
通過儀礼は祭儀を通して
限界を越える共同体の社会劇



Ⅱ. 生命思想と東学思想のリミナリティ

ヴィクター・ターナーは
社会的ドラマを通して
社会は生命を回復するという

A. 社会劇はファン・ヘネップの通過儀礼を

再解釈

アップは、人間は生存の危機に陥った場合、あるいは見知らぬ領域を通過したり身分の変化を経験する際に通過儀礼を経験するという。

ターナーは通過儀礼を社会普遍的な原理と構造である社会劇とみなす

B. アフリカのンデング族の成人式に着想を得

成人男性たちが宿舎に密かに入り、13歳の男児たちを拉致
この子どもたちが投げ込まれた場所こそが境界性（リミナリティ）

子どもたちは強烈な社会的連帯感と所属感を持って帰郷
共に生存しながら学ぶ共同体をコミュニティ

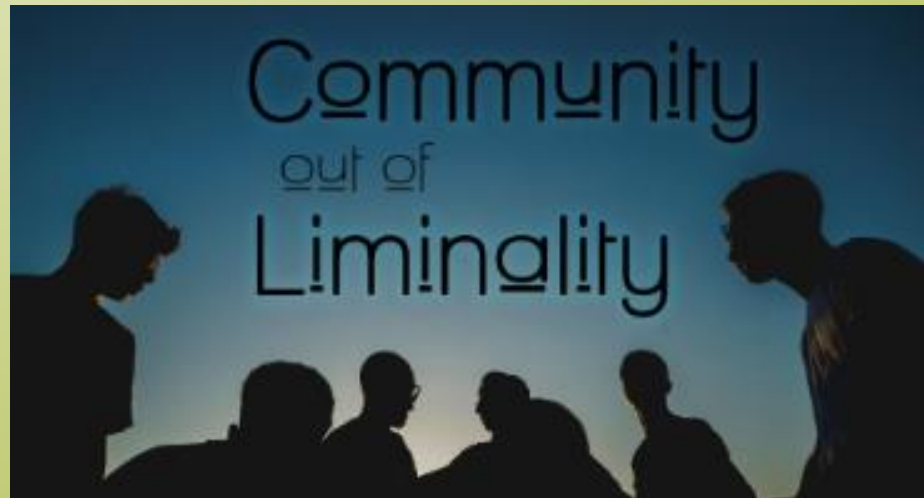
C. 構造→反構造→構造（structure）の弁証法

社会的ドラマは「全世界的に起こる普遍的な社会文化現象」であり、違反—危機—矯正/治癒—再統合/分裂の段階を経る。ファン・ヘネップが人生の危機において行われる祭儀、例えば成人式・結婚式・葬儀・出産と妊娠などに関心を集中したのに対し、ヴィクター・ターナーは大部分の祭儀や出来事が通過という過程や形式を持っているという事実に着目

Ⅱ．生命思想と東学思想のリミナリティ

ヴィクター・ターナーは

生命の境界線の中に置かれた
敷居と共同体に注目



Ⅱ．生命思想と東学思想のリミナリティ

A. コミュニタスとリミナリティの違い

リミナリティが既存の地位を喪失し、あらゆる可能性と潜在的な力で満たされた中間的な状態と過程であるとすれば、コミュニティは個人が役割や身分によって分かれたのではなく、個人の間で自由な関係を形成する

ヴィクター・ターナーは

第二段階である転移、反構造がB. 反構造の共通点は匿名性、平等性、閾値性
生命回復の鍵とみなす

コミュニティの中で人間は一般的に匿名的存在となる。儀礼の参加者は皆同質化されます。既存の社会的地位や身分などがすべて無化された状態で、積極的に平等主義を受け入れます。社会的役割と権威が逆転し、弱者が権威を掌握

C. 生命儀礼は第三段階の矯正/治癒段階を含む

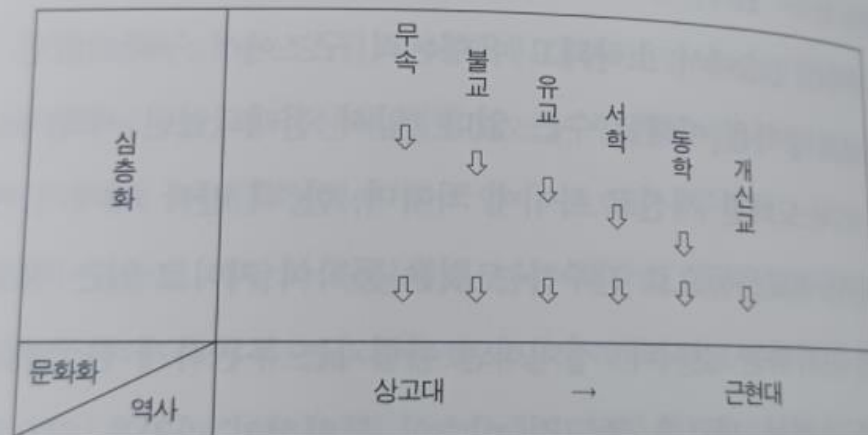
金芝河は生命とコミュニティの関係を成す。東学が当時成し遂げたリミナリティと一致

Ⅱ. 生命思想と東学思想のリミナリティ

金芝河のリミナリティの特徴

生命思想を
巨視的な精神史の流れとの連携
(鄭鎮弘、崔鍾聖)

〈표 1〉 한국종교사의 흐름



II.

ヴィクター・ターナーのリミナリティ社 会劇理論

儒仏仙とキリスト教の

リミナリティの関係
友と敵の比較
(韓泰東)

A. 儒教：XはXであり、-Xは-Xである。

友(X)は友(X)であり、敵(-X)は敵(-X)である。(論語第1章第1節、学びて(X)これを時に習えば(X)喜ばしく、

B. 道教：Xは-Xであり、-XはXである。

友(X)は敵(-X)であり、敵(-X)は友(X)である。
道(X)を道(X)と呼ばば道ではない。(道德経第1章第1節)

C. 仏教：XはXでも-Xでもない。

すべては空である。(般若心経、色即是空、空即是色)

D. キリスト教：Xはすべて

敵を愛せよ。(マタイ福音書)

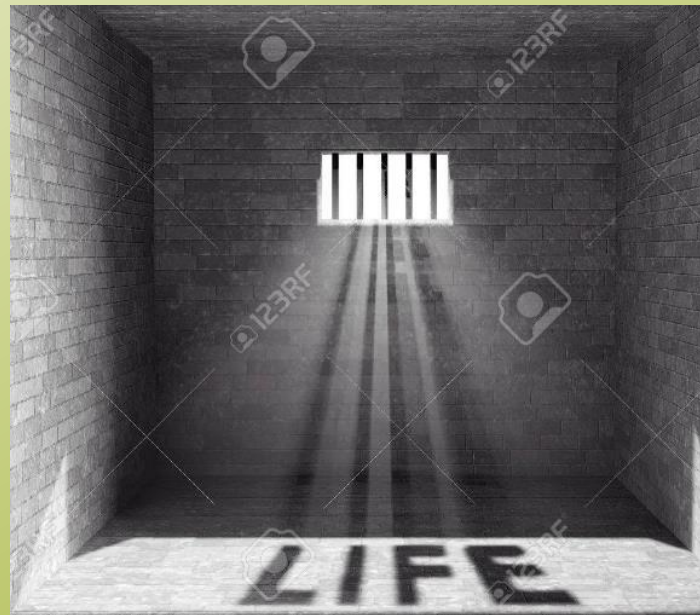
Ⅱ．生命思想と東学思想のリミナリティ

金芝河の東学のリミナリティ

胞胎 — 生命思想

極と極、男女の合一が生命

Xは-Xであり、-XはXである。



金芝河の生命リミナリティ の特徴（鄭鎮弘）

- A. 道教：Xは-Xであり、-XはXである。：胞胎
力の認識、生命の発見
- B. 仏教：XはXでも-Xでもない。：養生
ミュトス（感情）。天から地へ降りてくる
- C. 儒教：XはXであり、-Xは-Xである。
ロゴスの始まり、地と天が人間において出会う
- D. キリスト教：Xはすべて
敵を愛せよ。（マタイ福音書）

Ⅱ．生命思想と東学思想のリミナリティ

金芝河の自生的な生命思想は

アリストテレスに基づく

ポストモダニズムが失敗した地点で
咲いた東洋的リミナリティの始まり（金益



Ⅲ. 律呂思想と正易思想のリバイタライゼーション

「律呂」思想は

東学の生命リミナリティの
易学的展開である「正易」
正易は東学の失敗の
上での再活性化

A. 東学の失敗はリミナリティ復活の失敗

東学は百済滅亡以後、数千年ぶりのリミナリティの復活であった。

B. 気を強調した東学の失敗により、易の重要性が復活

気を強調した東学の失敗により、理である易の重要性が復活。
時代の変化を東洋思想で主体的に解釈

B. 律呂は仏教のように東学のミュトスとして

現れる
東学のメーシスのような再現であったなら、正易、その中でも律呂はミュトスのようにミメーシスを展開させる

Ⅲ. 律呂思想と正易思想のリバイタライゼーション

金芝河の律呂思想は

「パプ（飯）」思想のように理念の天が
日常の地へ降りてくる。

生物のような胞胎・養生・欲帯の段階
金芝河の思想は展開過程においても
民族美学を維持する再活性化



Ⅲ. 律呂思想と正易思想のリバイタライゼーション

A. 再活性化は社会的アイデンティティの回復

多くのアイデンティティが解体されうるといふ脅威を受けると、自らの長所に立脚して個人が自分の信念体系を再編し変え、変わっ
た信念体系を実践に移して社会における自分の位置を変化させるように、社会もまた伝統を再活性化してアイデンティティを回復す
る

アンソニー・ウォレスは

民族文化の再活性化を通じて
民族は生命を回復すると述べた

B. インディアン・セネカ族のロングハウスから着想

多くのインディアンは白人の侵略により、初めは挫折して放縦な生活を送っていたが、改心してロングハウスという伝統的な共同住
居の生活で白人に立ち向かった

C. 危機→歪曲→再活性化 (revitalization)

1. 正常状態/2. 個人的ストレスの期間/3. 文化的歪曲の時代/4. 活性化の期間 (メイズウェイの再構成、コミュニケーション、組
織化、適応、文化変形および日常化の機能が生じる)/5. 新たな安定状態

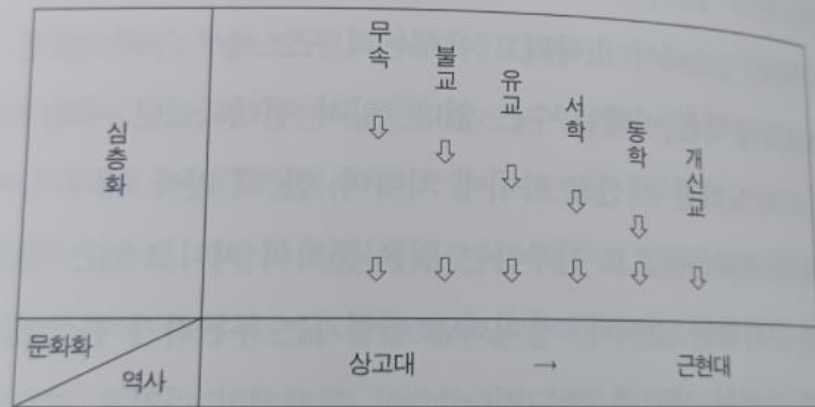
宗教学においてリミナリティは通過儀礼に属し、再活性化
は再活性化儀礼に属する。

Ⅲ. 律呂思想と正易思想のリバイタライゼーション

金芝河の律呂思想は

ミメーシスがミュトスになるように
民族文化として生命のリミナリティ
律呂の生活の中の生命へと
養生、すなわち再活性化される過程
帯の過程における必然的な手順

〈표 1〉 한국종교사의 흐름



IV. ヒングヌル (白い翳) 美学に現れた甌山の和解と相生

「ヒングヌル」の語源は

正易に起源する
李雲圭の影動天心月
翳が世界を変える

A. 正易は「影動天心月」の解釈から生まれ、
翳が世界を変える」という翳の意味に明るさが加わる

B. 生命が律呂を経てヒングヌルへと進化

カントの純粹理性・実践理性・判断力と同じ順序
ミメシス・ミュトス・カタルシスとも同じ順序
仙仏儒の胞胎・養生・欲帯と同じ関係

C. 影動天心月と儒仏仙

認識対象の側面から主体と客体が合一した世界の自覚を成そうとしたのが道家思想であるとするれば、認識主体の側面から主体と客体が合一した人格性の世界を自覚しようとしたのが仏家思想であると言える。一方、儒家思想は自覚にその中心があるのではなく、自覚の可能な根拠としての存在自体を闡明することによって、それを根拠として自覚と実践にその中心がある。

IV. ヒングヌル (白い翳) 美学に現れた甌山の和 解と相生

金芝河のヒングヌルは
真の東学の意味、複合化



IV. ヒングヌル (白い翳) 美学に現れた甌山の和 解と相生

金芝河のヒングヌルの 一貫した理解

A. 陰陽合徳 : Xは-Xであり、-XはX。 : 胞胎、
道教の基本的原理としての陰陽。生命としてのリミナリティ、
ミメシス : 天と初めて出会う

B. 神人調和 : XはXでも-Xでもない。 : 養生、
仏教ス (感情) 。天から地へ降りてくる、律呂、再活性
化

神と人間、天と地がそれぞれの長所を生かした神人調和
C. 解冤相生 : XはXであり、-Xは-X。 欲帯、
儒教の始まり、地と天が人間において出会う
カタルシス、長年の怨恨が解消される

D. 道通真境 : Xはすべてのもの、冠旺、キリ
スト教の始まり。赤い悪魔の変拍子のように、互いに異なるものが調和を成す。汝の敵を
愛せよ。 (マタイによる福音書)

ありがとうございました

Any questions?